

5. 「国立療養所長島愛生園史」編さんの必要性

以上、4-4.では長島愛生園内の史跡指定範囲（案）に含まれる12エリアの来歴、現状及び特徴を発刊済みの書籍や歴史館が保存管理している文献資料を中心に簡易にまとめた。ここで改めて長島愛生園という施設の変遷をまとめた書籍等が存在しないことに気付く。

世界文化遺産や国指定史跡は別の制度であるが、土地や建物という不動産の価値を証明し、文化財として後世に継承するという点では共通する。世界文化遺産の顕著な普遍的価値（OUV）の言明は単なる響きの良いキャッチーな作文であるはずがなく、不動産により示された高度な学術的価値の証明が求められる。国指定史跡の意見具申に向けては、長島愛生園という土地の日本の歴史上かつ学術上の本質的価値を学識経験者や専門家を交えて調査報告書として提出する必要がある。しかしながら現状では、学識経験者や専門家との協議を開始する上で必要な施設の変遷を示した通史が無い。

そこで、直接の目的は国指定史跡化に向けた本格的な調査研究のための通史の作成を目指しつつ、開園100年を目指す本ビジョンの一環として歴史館に園史編さん準備会を新たに設置し、2030年を目途に「国立療養所長島愛生園史」を編さんし、出版することを提案する。

長島愛生園史の具体的な編さん方針や構成、執筆担当は準備会にて検討することとなるが、長島愛生園を取り巻くヒト・モノ・サービスの流れと島内の機能、土地利用施設の変遷がまとめられれば本書46ページ記載の図03「コミュニケーションとしての長島愛生園機能相関図」を具体的に示すことができる。またこれら施設の変遷は長島愛生園予算の変遷と一体（当然戦前の民間団体による寄付のウエイトは無視できない。）であるため、とりわけ戦後に入所者自治会が果たした予算獲得運動を含む役割とも密接に関連すると思われる。

以下では、「国立療養所長島愛生園史」の構成案を示す。

【国立療養所長島愛生園史】構成案

①施設の変遷

江戸時代～大正時代 開園前の長島～長島愛生園開園に到る経緯

1930（昭和5）年 開園（図15、本書105ページ）

1935（昭和10）年頃～ 寄附住宅

1943（昭和18）年 戦前園内最大2,154名（入所者2,009名+職員145名）

1947（昭和22）年 プロミン試験治療開始

1951（昭和26）年 戦後初の患者住宅及び重病舎等竣工

1958（昭和33）年 戦後園内最大2,139名（図17、本書108ページ）

（入所者1,738名+新良田高校生112名+職員289名）

1964（昭和39）年 第1不自由舎棟竣工

1966（昭和41）年 精神病棟竣工

1976（昭和51） 台風17号と秋雨前線による豪雨災害

1988（昭和63）年 邑久長島大橋開通 など

②テーマ別

- ・癩予防法制定
- ・開拓患者
- ・隔離収容
- ・懲戒検束
- ・長島事件
- ・寄付住宅
- ・患者作業と作業返還
- ・プロミン獲得闘争
- ・らい予防法闘争
- ・全患協
- ・年金獲得運動
- ・軽快退所と社会復帰
- ・邑久長島大橋架橋運動
- ・らい予防法廃止
- ・国賠訴訟
- ・文芸史
- ・宗教史
- ・医療史
- ・看護史
- ・介護史
- ・義肢装具史
- ・交流史 など

③個別建造物・土地の変遷

NPO が 2019 年度に独自に作成した「保存管理活用計画」シートに沿って記載する。図面や古写真に加えて、「愛生」誌に記載された個別物件に関する人々の記憶を時代ごとにまとめる。

④植生の変遷

皇族お手植えの樹木を除いては大部分が失われていると考えられるが、長年編集部に所属した双見美智子氏（故人）が「愛生」誌に掲載した長島愛生園ゆかりの樹木や植物画をまとめた『土に還る』（研精堂印刷、平成 21 年）を手掛かりに調査を実施することが有効である。

⑤その他

歴史館にて展示されているジオラマ（本書 107 ページ）に配置されている建造物等は、寸法は違えども 1955（昭和 30）年直前に実在したこれらの細部を忠実に再現しており、入所者の手で制作されたことから有形文化財としての価値が認められる可能性がある。

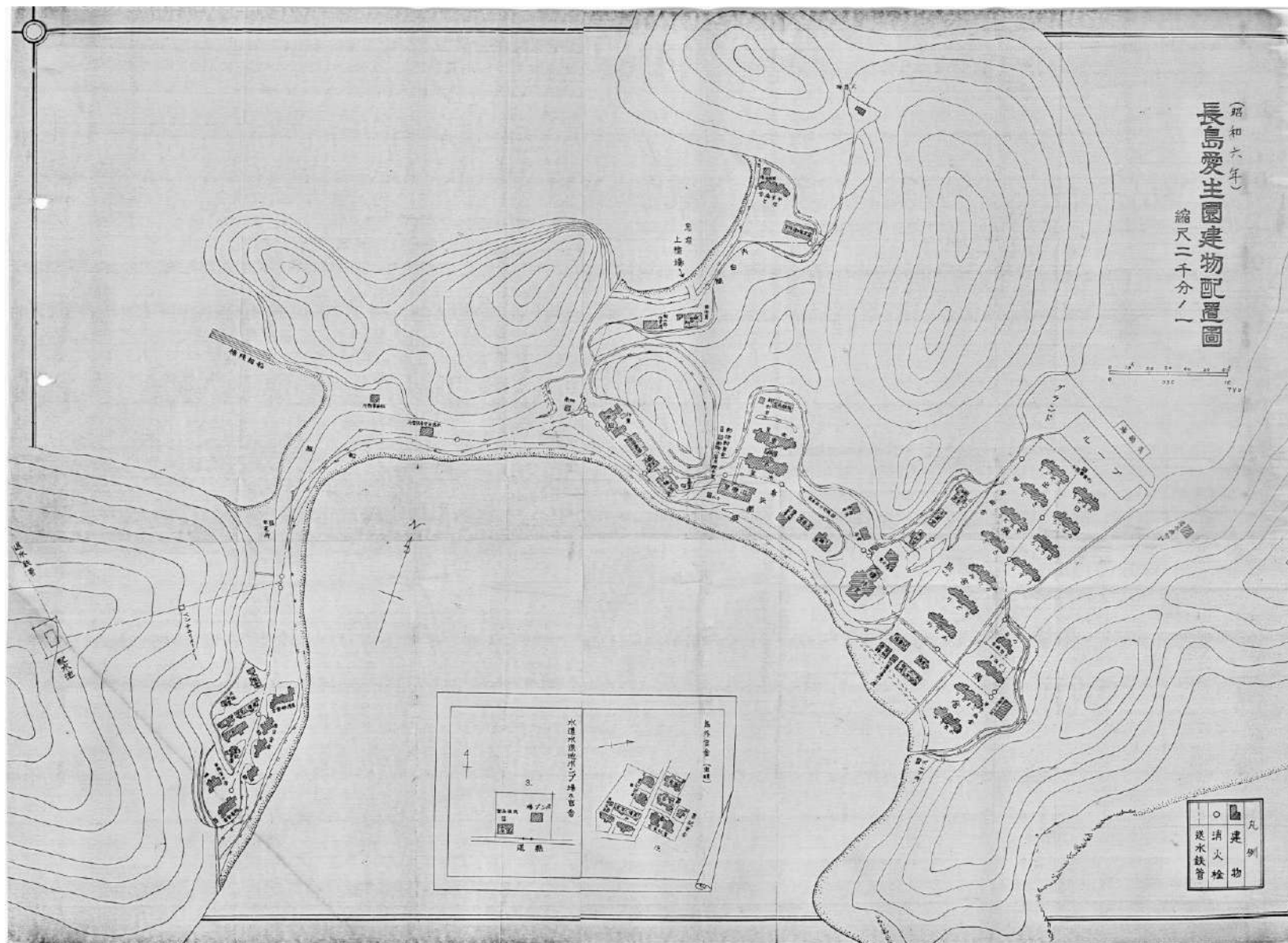


図 15 昭和 6 年「長島愛生園建物配置図」



昭和 30 年頃の長島愛生園を忠実に再現した入所者製作のジオラマ（昭和 30 年 6 月 25 日完成）

撮影 写真家 西 岳海

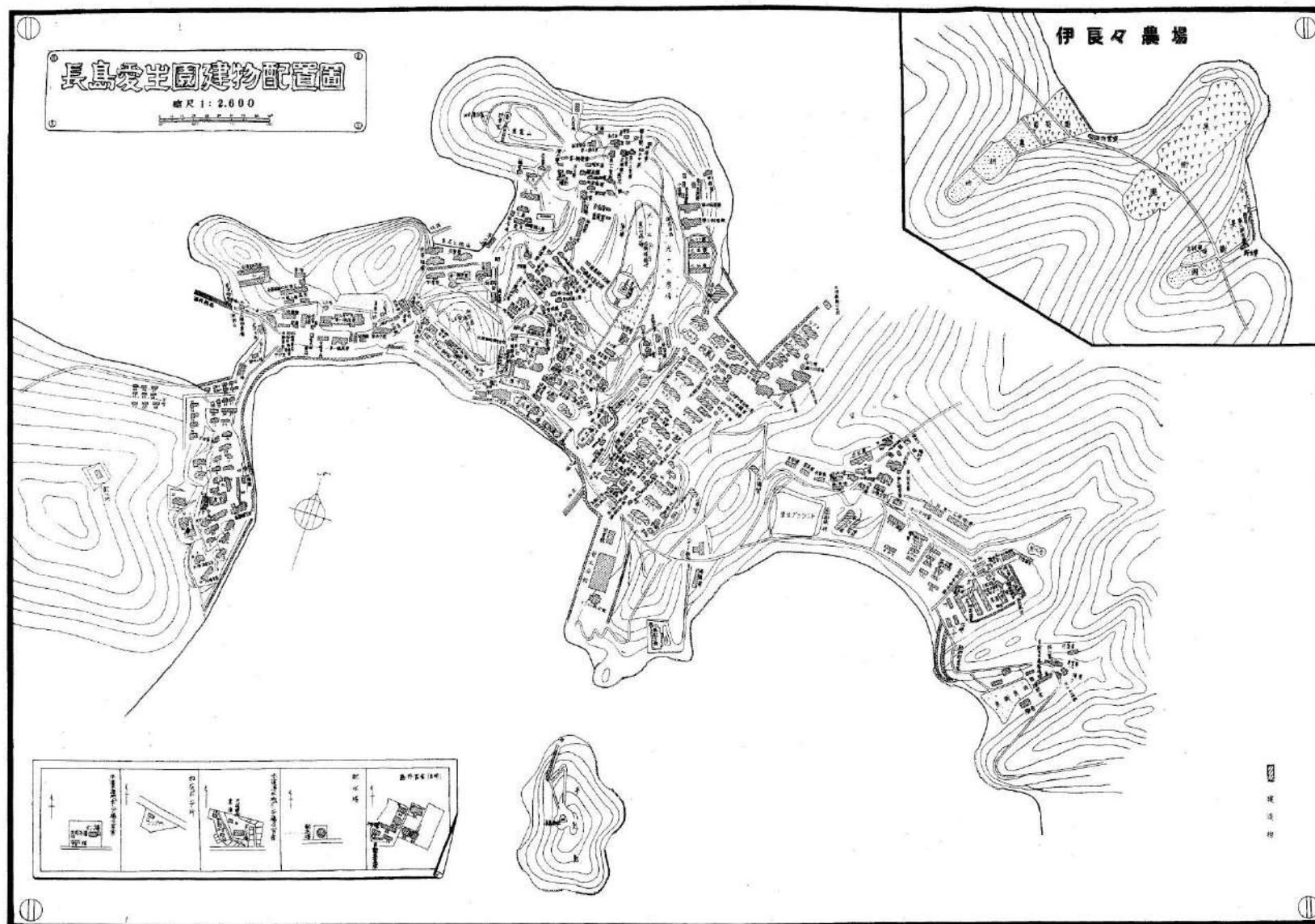


図 17 昭和 35 年「長島愛生園建物配置図」

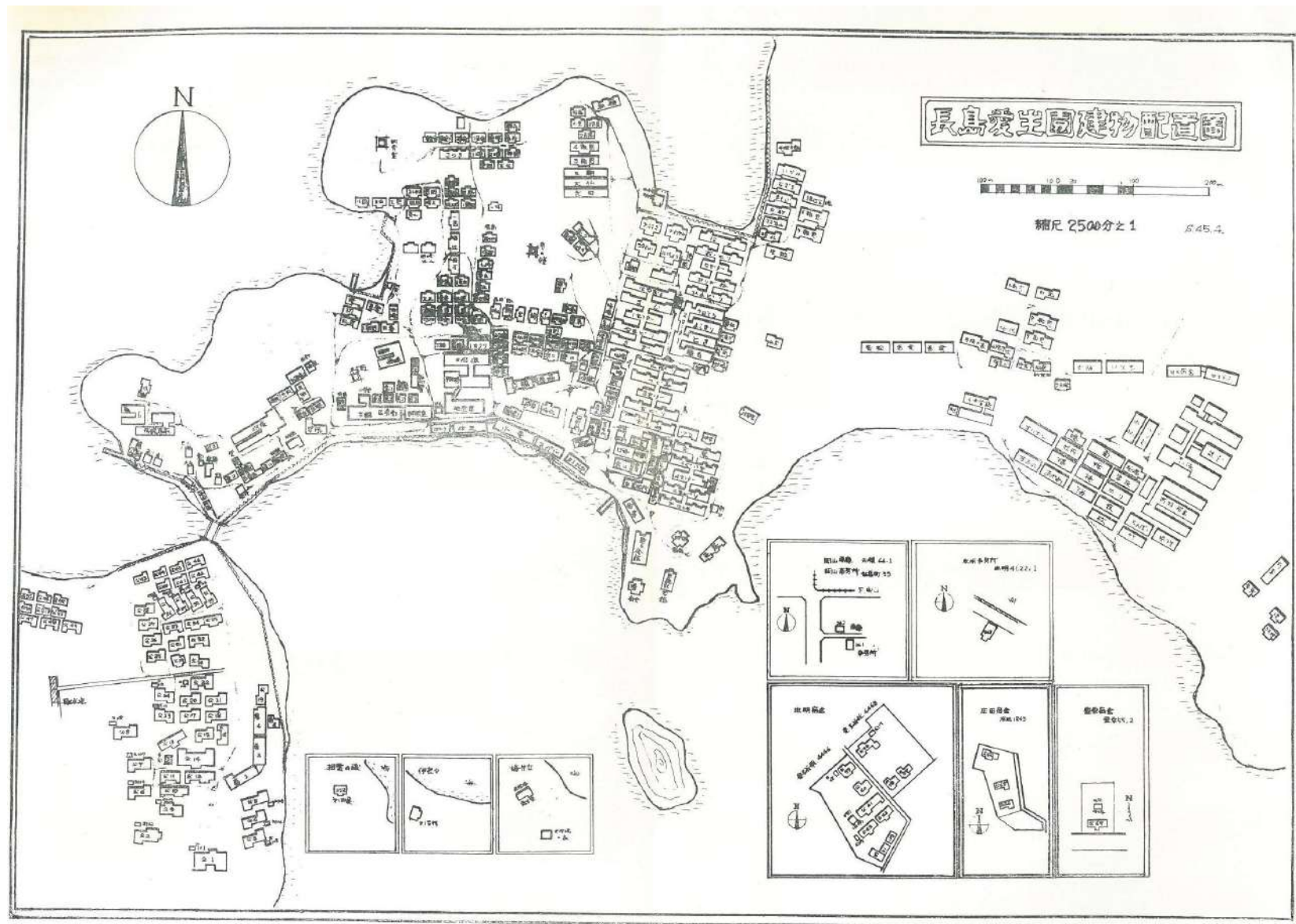


图 18 昭和 45 年「長島愛生園建物配置図」



図 19 平成 2 年「長島愛生園建物配置図」

6. 「人権学習の場・長島愛生園」(仮称) 創設に向けた事業相関と体制

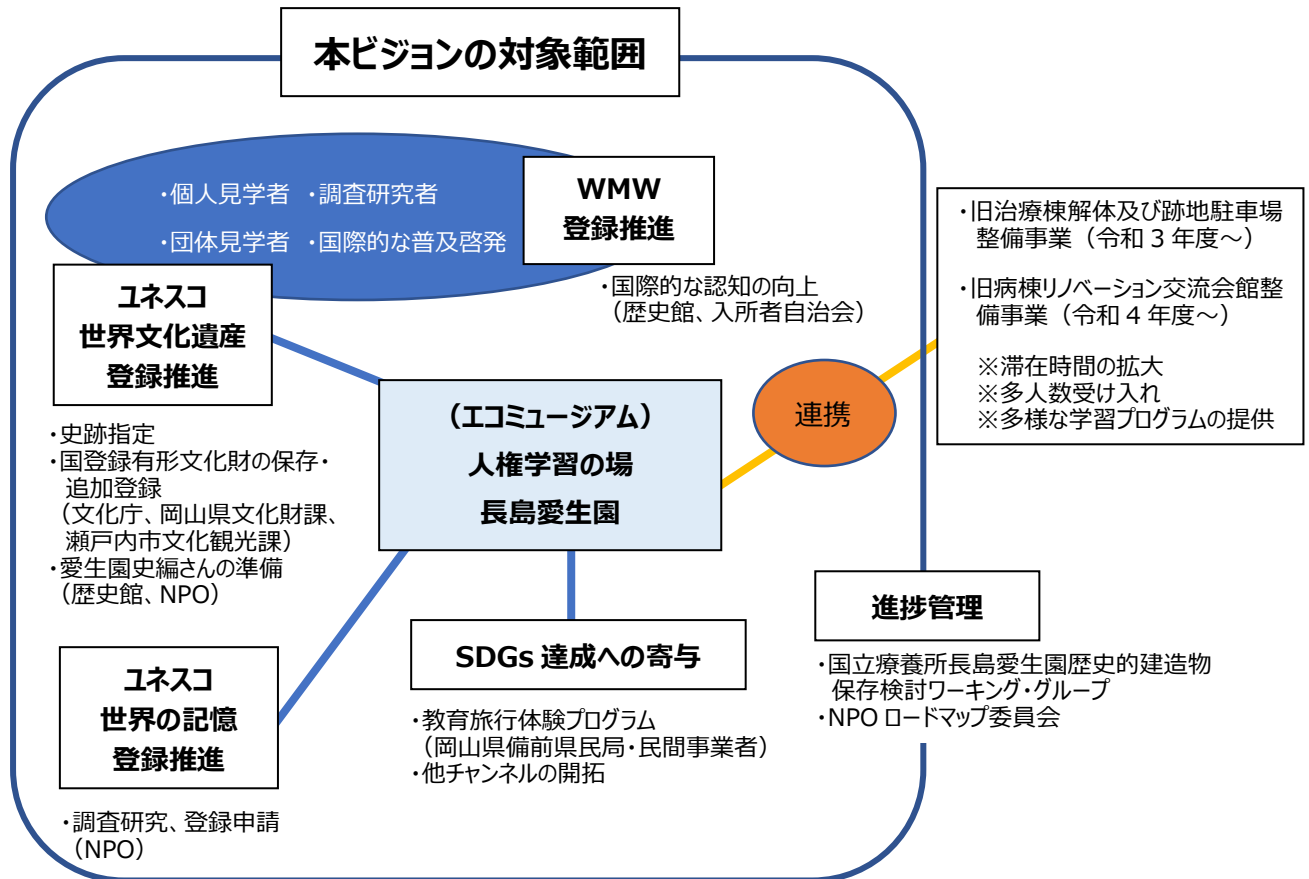


図 20 「人権学習の場・長島愛生園」(仮称)創設に向けた事業相関図

「人権学習の場・長島愛生園」(仮称)の創設は、「ユネスコ世界文化遺産への登録」、「ユネスコ世界の記憶への国際登録」、「Ecomuseumの創設」、「SDGs 達成への寄与」それぞれの事業を通じて実現を図る。これらの取り組み及び調査研究の成果を「WMW (ワールド・モニュメント・ウォッチ) 登録推進」を通じて国際的な認識向上と普及啓発を図る。

本ビジョンの目的④(本書 20 ページ)記載のとおり国指定史跡及びユネスコ世界文化遺産を目指す上では今後の土地や建造物等の現状変更をコントロールする必要がある。関係者で知恵を出し合い、情報を共有することで将来に禍根を残すリスクを回避できると考える。そこで、国立療養所長島愛生園歴史的建造物保存検討ワーキング・グループが NPO ロードマップ委員会と協働し、本ビジョンの進捗管理を行う機関として機能させることを提案する。

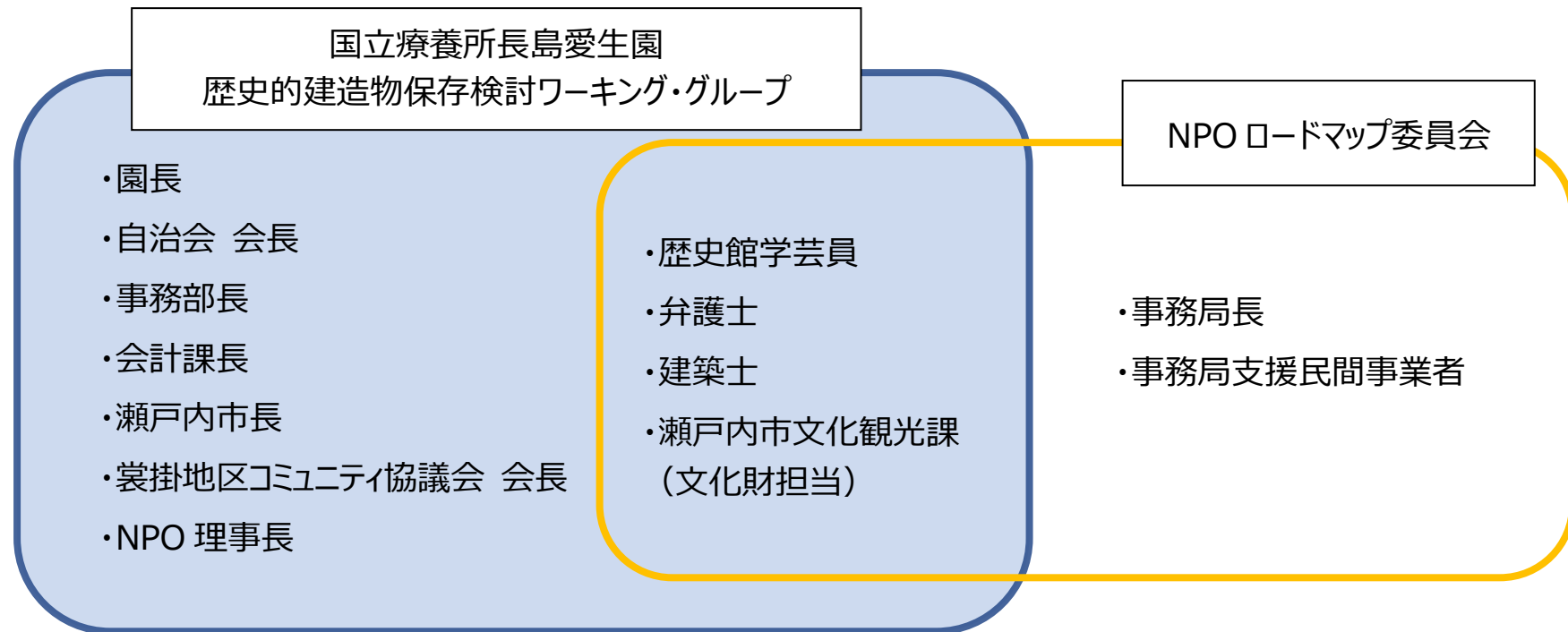


図 21 国立療養所長島愛生園 保存活用ビジョン進捗管理体制図

7. 国立療養所長島愛生園保存活用ビジョン短・中・長期スケジュール

本ビジョン実現に向けたスケジュールを短期（2021 年度～2023 年度）、中期（2024 年度～2029 年度）、長期（2030 年度～）に分けて示したものが図 22（本書 114 ページ）である。

8. その他

本ビジョン実現に寄与するその他の事業は以下のとおりである。

・ 瀬戸内市文化財保存活用地域計画

長島の歴史は、瀬戸内市が発行した『邑久町史』（平成 17 年「地区史編」、平成 19 年「史料編（下）」、平成 21 年「通史編」）に多くのページを割いて記載されている。時代背景を加味しても国立ハンセン病資料館図書室で閲覧できる他のハンセン病療養所所在市町の自治体史に比べて、そのページ数は圧倒的に多い。立岡脩二瀬戸内市長（当時）は、長島に関する一次資料を多く掲載した「史料編（下）」刊行のことばで以下のとおり述べている。

長島には、ハンセン病の国立療養所として全国で初めて設置された長島愛生園と、大阪から移転・設置された邑久光明園という二つの療養所があります。このたび本書には、両園および両園の入所者自治会、さらに岡山県ハンセン病問題関連史料調査委員会等の全面的なご協力により、療養所をめぐる貴重な史料を多数収録することができました。多くの方にご覧いただき、ハンセン病に対する正しい理解と偏見・差別の根絶を図るとともに、理解を深めあい、諸問題の解決に向けて前進する一助になることを期待します。

瀬戸内市文化観光課が現在策定中の文化財保存活用地域計画において、長島のハンセン療養所にまつわるストーリーを「歴史文化」「文化資源」として位置付ければ、「文化遺産としてのハンセン病療養所の歴史」構築に向けた庁内関係部署及び地域社会の意識の醸成を目指すことが可能となる。

また、所在自治体の文化財保存活用地域計画に長島がストーリーとして記載されていることは、今後目指す国指定史跡化に向けて、とりわけ文化庁に対して不利に働くことはない。

・ ユネスコ世界の記憶登録推進

該事業は、NPO にて調査研究が進められているため本書では割愛する。「人権学習の場・長島愛生園」（仮称）創設を支える歴史的記録物の 2024-2025 国際登録サイクル国内申請を目指されたい。

項目／年度	2021(R3) 短期	2022(R4) 短期	2023(R5) 短期	2024(R6) 中期	R7・8 中期	R9～11 中期	2030(R12)～ 長期
保存活用ビジョン	策定	改定	改定	改定	改定	改定	改定
(エコミュージアム) 人権学習の場・長島愛生園	新型コロナウイルス 感染拡大		アフターコロナ時代における磨き上げ				
SDGs達成への寄与	備前県民局事業	備前県民局事業	他チャンネルを開拓し、2030年のSDGs達成目標時期を見据える				
WMW登録推進		推薦書作成	推薦	審査・決定	発信・資金調達 整備	資金調達・整備	
(継承へのパイロット事業) 収容桟橋・監房跡	調査完了 予算要求	予算要求 事業化枠組検討 設計	予算要求 資金調達 設計・整備	予算要求 資金調達 設計・整備	整備完了	保存活用	
長島愛生園史の編さん (国指定史跡委員会と合流)		準備室 悉皆調査	編さん室 悉皆調査	編さん室 史跡委員会	編さん室 史跡委員会	編さん室 史跡意見具申	園史発刊 史跡指定
NPOロードマップ委員会 愛生園歴史的建造物保存WG	調査 予算要求	調査 予算要求	調査 予算要求	調査 史跡委と連携 予算要求	調査 史跡委と連携 予算要求	調査 史跡委と連携 予算要求	調査 予算要求
WH暫定一覧表追加への対応		作成	作成・提出	作成・提出	作成・提出	暫定一覧表記載 推薦書案作成	推薦書案作成
WH緩衝地帯・史跡外陸地の保護				検討・調整	検討・調整	検討・調整	保護完了
世界の記憶登録推進	プログラム再開	申請書作成	国内申請	2024-2025国際登録サイクル（以後、2年毎に繰り返す）			

図 22 国立療養所長島愛生園保存活用ビジョン 短・中・長期スケジュール